

国際航空シンポジウム『アジア・太平洋地域の国際航空の将来』

藤井国土交通審議官 来賓挨拶

ご紹介いただきました、国土交通省国土交通審議官、藤井と申します。本日は、東京国際航空シンポジウムにお招きいただきまして、誠に有難うございます。

アジア・太平洋地域の国際航空の将来をテーマとするシンポジウムが、日米の政府関係者、主要な航空会社や空港会社など多数のご参加を得て、本日ここ東京で開催されますことを、まず心よりお慶び申し上げます。

アジアの東の端に位置する我が国にとりまして、アジア・太平洋地域との関係は大変に重要でございます。昨年 2018 年の我が国の輸出入の総額のランキングというのを改めて見てみますと、1 位が中国、2 位アメリカ、3 位が韓国、4 位に台湾、そして 6 位にタイ、9 位にベトナム、さらに 10 位にはインドネシアと、このエリアに属する国々との経済的なつながりの強さが改めてうかがえるところでございます。四方を海に囲まれました我が国にとりまして、こうした活発な経済活動を支える人やモノの流れを担う航空ネットワークの充実が必要なことは言うまでもありません。また我が国は、観光分野を新たな国の成長戦略の柱と定め、訪日外国人旅行者数を 2020 年には 4000 万人、さらに 2030 年には 6000 万人とする目標を設定して、国を挙げてその実現に向けた取り組みを進めております。

アジア・太平洋地域との航空ネットワークの整備は、この観点からも我が国にとって緊急の課題となっているところでございます。一方で、アジア地域、北米地域、そして欧州地域、こういった三極間の航空輸送に目を転ずると、その中でアジアと北米の伸びというのがやはり一番大きくなっているということでございます。このことを背景としまして、アジア・大洋州地域を結ぶ航空ネットワークの結節点となる、アジア諸国の巨大空港同士の競争が、ますます激しくなっているということかと思えます。我が国においては、羽田空港発着の昼間の時間帯の国際線について、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会の開催も見据え、地元の皆様のご理解を得られるよう努めつつ、来年 3 月末から、1 日あたり現行の 80 便からさらに 50 便を増やすということにしております。そのうち約半数を米国との間の航空路

線の充実に振り向けることとしております。

また成田空港におきましては、3本目の滑走路の建設に向けて、国が空港の基本計画を改定し、成田空港会社が必要な手続き等の準備を開始したところでございます。さらに、両空港におけるターミナルやホテルの整備、さらに急増する外国人旅客に対する情報提供の充実といった、ハード・ソフト両面の対策を充実させ、さらに関空・中部といった他の基幹空港との適切な役割分担のもとに、アジア・太平洋地域での空のゲートウエーとしての役割、これをしっかりとわが国が維持・拡大していくということを図りたいと思っております。

国際航空輸送の世界につきましては、それぞれの国ごとに、空港整備や航空管制を主に担う公的なセクターと、航空ビジネスを担う民間セクターが存在し、その適切な連携のもとに、初めて航空機の円滑な運航がなされるということだと理解をしております。このシンポジウムは、アジア・太平洋地域の国際航空輸送に関し、そのような様々な立場のキープレイヤーの皆様が参加されています。この地域の旺盛なビジネス活動や、急増する観光需要に的確に対応した航空サービスを提供するという、共通の目標に向けて、これらの皆様が現状認識や今後の政策、あるいは経営戦略について意見交換を行う、この機会は大変貴重なものであり、我が国の航空行政の今後の展開においても、大きな示唆を得られるものと期待しているところでございます。

本日のシンポジウムが、アジア・太平洋地域の国際航空の今後の発展に資するものとなることを祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。